

令和2年度 学校経営計画

1 学校教育目標

(1) 教育目標

真理と平和を愛し、社会に貢献しうる工業人の育成を目標とし、有能な技術者としての資質を高め、工業の発展を図る能力と実践的態度を育てる。

校訓（生活標語） 誠実 友愛 自律

(2) 教育方針

- ・誠実・友愛・自律を校訓とし、健全な心と強健な身体の発達を促す。
- ・各学科の専門分野に関する基礎的な知識と技術を身につけ、技術革新に対応できる能力を養う。
- ・創造性を養い、社会の進展に対応できる自主的な行動力を育てる。

2 学校の特徴

ものづくりを中心とした日常の学習活動や、部活動・ボランティア活動などの課外活動を通じて、健全な心身や人格を育み、将来は地域のものづくり産業を支え、社会に貢献できる実践的な能力やたくましさを身につけた人材の育成を目指している。

学科構成は各学年機械科2クラス、電気科1クラス、電子科1クラスの計4クラスである。

卒業後の進路は、就職が約7～8割でそのほとんどが県内である。進学は約2～3割である。

3 学校の現状と課題

(1) 課題 「時代の変化に対応した工業教育の推進」

(2) 課題設定の趣旨

個々の生徒の可能性を引き出し、時代の変化に主体的に対応できる柔軟な頭脳と個性の伸長を図りたい。そのため、明るく活力にあふれた学校づくりに努める。また、日常生活における道徳性を身につけさせるとともに、学習活動と特別活動の両面において指導の充実を図り、生徒の自ら学ぶ意欲を高め、自発的に問題解決のため行動する実践力を育成する。

(3) 現状と問題点

将来の目標を掲げ有意義な高校生活をおくっている生徒が多いなかで、目的意識が低く学習や特別活動に意欲がもてない生徒や家庭における基本的な生活習慣が身につけていない生徒もおり、生活指導上留意が必要である。これらのことについて、学校全体の問題として捉え、多面的に対処することが必要である。

4 学校教育計画

項目		目標と計画	
1	学習活動 重点1 ①②	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>基礎学力を身につけさせる</u>とともに、体力の向上を図り、社会人としての豊かな教養を身につけさせる。 ○問題解決能力や、自発的・創造的な学習態度を育てる。 ○<u>資格や検定試験の取り組みにより学習意欲を高める</u>とともに、知識や技術を身につけることにより進路意識を高める。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○専門分野に関する基礎的・基本的な知識や技術を習得させる。 ○<u>主体的、合理的に、かつ倫理観を持って課題を解決する能力と態度</u>を育てる。 ○工業の意義や役割を理解し、地域社会の発展を図る能力を育てる。
2	学校生活 重点2	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>基本的な生活習慣やモラルの確立</u>を目指す。 ○コミュニケーション能力の向上を図る。 ○人の気持ちが分かる生徒の育成を目指す。 ○交通ルールを遵守させる。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○遅刻指導、あいさつ運動の推進に努める。 ○声かけなど対話型の指導で生徒の内面より指導する。 ○Q-Uアンケートを実施する。 ○自転車カギかけチェックを実施するとともに、私物の管理、教室の施錠の徹底を図る。 ○通学路での交通安全指導や校内での啓発活動を通じての交通モラルの向上を目指す。
3	進路支援 重点3	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な機会を通して、就職や進学への意識の高揚を図る。 ○<u>生徒一人ひとりが自分の能力・適性に合った進路選択ができるように指導する。</u>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○2年生全員対象のインターンシップを実施し、体験発表会を行う。 ○先輩の話を聞く会、進路講話等の行事を通して勤労意識の向上を図る。 ○就職希望者には、応募前職場見学により進路を決定させ、試験に向けて面接指導を行う。 ○進学希望者には説明会やオープンキャンパスの参加を推奨する。
4	特別活動 重点4	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○特別活動を通して、目標達成に向かって<u>自分の責任を果たすことや協力しあうことの意義</u>を理解させる。また、生徒の主体的な活動を支援し、活動を通して生徒の個性を伸長するとともにコミュニケーション能力を養い、協働で物事を成し遂げる力を育む。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○特別活動において生徒の興味関心に応じた企画運営や積極的な参加を支援する。 ○部活動の目標・目的を明確にし、活動の充実を図るとともに部員相互の理解を深める。
5	その他	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○地域社会との積極的な交流を通して、工業人としての自覚と誇りを持たせる。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○各種の地域イベントに参加し、おもちゃの病院などの地域要請にできるだけ応える。 ○インターアクトクラブの活動を生徒全体にも広げ、ボランティア活動を推進する。 ○中学生の体験入学を充実させる。

(様式3)

5 学校アクションプラン

2020年度 砺波工業高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	生徒の実態に対応した基礎学力の定着と自主的に学習に取り組む態度の育成
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の生徒の平日の家庭学習時間の平均は、7月が44分、12月が35分であった。また、7月は約30%、12月は約43%の生徒の家庭学習時間が0分であった。 ・基礎学力（計算力、文章読解力など）が不足している生徒が多いという指摘があり、基礎計算力テストや宿題テストにより現状を把握し、補習を実施してきた。 ・休校期間中は、家庭学習で課題に取り組み、自ら学習状況を把握し、学習の進め方を試行錯誤するなど主体的に学習に取り組む機会となった。 ・本校では以前より就職に直結する資格検定の取得を推進している。そのため、資格検定の日程や難易度、費用、申請方法、ジュニアマイスター取得モデルケースについて示した「資格検定ガイドブック」を作成し、生徒が自ら積極的に取り組むきっかけになるようにした。 ・自信や達成感が持てない生徒が多く、各教科へ学習意欲や資格検定にチャレンジする意欲を持たせる工夫とサポート体制が必要である。特に今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止ため、多くの資格検定の実施が中止されるなど受験機会が減ったこともあり、指導の工夫が一層必要である。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日の学習する生徒が70%以上 ○生徒一人あたりの資格検定受験回数の平均2回以上
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が目標を立て、学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れられるように工夫する。 ・ICT教育を積極的に活用し、生徒への指導内容・方法を研究し、生徒の学力向上や生徒の主体的な学びを育む。 ・基礎計算力テストを継続して実施するとともに、学年と連携した朝学習や宿題テストなどにより、基礎学力の確実な定着と学習意欲の喚起に向けた指導の工夫・充実を図る。 ・全生徒に対して資格検定ガイドブックの内容の周知を徹底し、「ジュニアマイスター顕彰」や「とやま高校生ものづくりマイスター」も目標として取り組ませる。内容にはジュニアマイスターシルバー取得のモデルケースを例示する。 ・難度の低い資格の取得により自信や達成感を持たせ、段階的に高度な資格検定にチャレンジさせて意欲を高める。また、学年や学科を中心に、全教員で協力して補習体制を確立する。
(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪化した)	

2020年度 砺波工業高等学校アクションプラン - 2 -			
重点項目	学習活動（専門）		
重点課題	自主的に資格検定に取り組む態度の育成		
現状	(機械科) <ul style="list-style-type: none"> ・合格しようとする意欲が全般的に薄れてきている。 ・難易度の高い資格に挑戦しようとする生徒が減少する傾向にある。 	(電気科) <ul style="list-style-type: none"> ・真面目ではあるが、物事に対して慎重に取り組む生徒が多く、コミュニケーションが苦手な生徒も多い。 ・学習面では基礎的な項目が身につけていない生徒が多い。 	(電子科) <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度まで3年次のDD3種合格率50%以上の目標を達成している。 ・昨年度ジュニアマイスター受表彰者数が過去最高の18名になるなど、多数の資格を取得する生徒が増えた。一方で、1年次以降は資格を取得しない生徒も増えている。
達成目標	1年次受験の計算技術検定、丙種危険物、情報技術検定の全てに合格する生徒の割合70%以上	卒業時の合格率 第2種電気工事士90%以上 第1種電気工事士60%以上	電子科全生徒の年間の資格検定合格数160件以上（卒業時の一人当たりの資格検定取得平均4個）
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の3つの資格検定については、卒業までに取得するよう指導する。 ・受験する資格検定は、必ず合格しようとする意識付けを行う。 ・学科で作成の実習テキストにジュニアマイスター顕彰受賞のモデルケースを記載する。 ・成績不振者のスクリーニングを行い、朝学習や放課後、休日等に個別補習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全員で合格するという雰囲気を作る。 ・各資格の学習指導を学科内チームとして行い、生徒の学習状況を指導者で共有する。 ・適宜、朝補習、放課後補習を行い、知識等の定着を図る。 ・生徒相互間で教え合う環境を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得の意義を理解させる。 ・計画的な補習や模擬試験を行う。 ・具体的な勉強方法の提示などにより、家庭学習の定着を促す。 ・受験生徒同士で教え合う環境をつくる。 ・再受験者に対し、個別の補習指導を行う。
(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪化した)			

2020年度 砺波工業高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	学校生活
重点課題	基本的な生活習慣とモラルの確立
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の乱れが学習活動に悪影響を及ぼしている生徒がいる。 ・ 生徒どうしの関係におけるストレスから、不調を訴えて欠席する生徒が散見される。 ・ 紛失等は減少しているが、私物管理の意識が低い生徒が少なくない。 ・ SNSやオンラインゲームなどに過度な時間を費やしたり、不適切な投稿をしたり等、ネット利用の規範意識が低い生徒がいる。また、校内の携帯電話のルールを守れない生徒がいる。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度の欠席数・遅刻数・早退数のそれぞれ10%減を目標とする。 ・ ネットパトロール報告数、携帯電話利用違反者数「0」を目指す。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各科や学年、保健厚生部等と連携し、学業を中心とした生活習慣の確立・維持を促す。 ・ 学年で実施している朝学習をもとに、毎朝の遅刻指導を徹底し、声がけをする。 ・ 各アンケートを活用し、生徒との面談を充実させ、問題を抱える生徒にはともに原因を探り解決策を見いだす。 ・ 教室や部室の施設徹底や自転車カギかけチェックを実施（生活安全委員）する。 ・ 学年や部活動顧問と連携し、教室や部室の環境整備に努め、私物の管理を徹底させる。 ・ ネットモラル教育推進する。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪化した)

2020年度 砺波工業高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	進路支援
重点課題	学年、科と連携した進路指導の充実および自己理解を通じた進路支援
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、企業の求人が減少し、就職環境の悪化が予想される。 ・ 年度当初の休校で進路に対する目標設定が遅れている生徒がいる。 ・ 基礎学力やコミュニケーション能力が不足している生徒も少なくない。
達成目標	年度内進路決定 100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業との積極的な情報交換により、企業のニーズを捉え生徒・学年に伝え生徒の就職活動に活かす。 ・ 進路に悩む生徒との面談を実施し、進路指導の立場からアドバイスする。 ・ 職業適性検査や自己分析の実施と就職スタートブック（労働局）の活用。 ・ 面接指導の充実により、面接試験だけでなく就労意識の向上を目指す。 ・ HR時に、自己分析の時間を設ける。適性を考えるVTR教材の活用を図る。 ・ 進路の手引きを全学年に配布し、生徒と保護者に進路決定の流れを知ってもらう。 ・ 校外学習や工場見学、インターンシップ、応募前見学、オープンキャンパスを通じて企業や学校を知り、進路決定するように指導する。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪化した)

2020年度 砺波工業高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	特別活動
重点課題	部活動の充実
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員部活動加入制を取っており、運動部に約6割、文化部に約3割の生徒が所属しているが、約6%の生徒が部活動に無所属である。(2,3年生 年度当初) ・ 昨年度の部活動に関するアンケートにおいて、成績自己評価で「ほぼ目標を達成した」と回答した生徒は30%、貢献度自己評価で「だいたい貢献した」と回答した生徒は55%であった。 ・ 昨年度、ブロック大会以上の大会に進出した部は21部中11部である。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動への貢献度自己評価(4段階)において、「貢献した」または「だいたい貢献した」が70%以上 ・ 部活動の満足度評価(4段階)において、「満足」または「ほぼ満足」が80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 壮行会、激励会において、全校生徒で選手を応援することで母校の代表としての活躍を期待する。 ・ 生徒の活躍を全校生徒の前で披露し、他の生徒のよき手本として示し、その波及効果を期待する。 ・ 生徒会活動、運動部部長による応援団活動などのリーダー活動を経験させ、各々の部活動の主体的活動につなげる。 ・ 全国大会出場の懸垂幕掲示や学校ホームページへの掲載を通して学校外に広報し、部活動への関心と期待を高め、部活動の一層の充実を図る。 ・ 部活動指導員、スポーツエキスパート等により部活動指導体制の強化を図る。 ・ 全国大会活躍報告会の実施により、全校生徒で結果を共有するとともに、各部に波及効果を与える。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪化した)